

「それでも、まだ文句ある？」

ある時、手に棘が刺さりました。ちょっとした木材工作の最中に油断して刺さったものです。ほんの1ミリにも満たない小さな棘は、何もしていなければ痛くも痒くありませんが、ちょっとでも触ったり、持ったりすると我慢できないくらいの痛みを感じさせました。「身体はこんなにも大きいのに、たったこれだけの棘が痛くて仕方ないんだな」と、なんだか凶体のデカさの割に繊細な人間の身体を頼りなく思ったことがあります。しかし、この考えを、医者をしている友人に話したら、「それってむしろ逆な話で、人間の身体っていうのは、小さな棘さえもちゃんと痛みとして感知して、取り除かせるように促すことができる凄い機能を持っているってことなんじゃない？」と言われました。そして、「いやあ、神様ってのは、人間の身体をよくもまあ、こんなに精密に作ったもんだと思うよ」と、お医者さんである友人は、牧師である私に神様の偉大さを説いてくれたのでした。確かに、言われてみればそうだな、と。当たり前過ぎて考えることさえ忘れてしまっていますが、普通に立って歩くということ自体、これ凄いことですよね。人類は、ようやくロボットで二足歩行や肢体制御を再現できるようになりましたが、走ったり、しゃがんだり、階段を上ったり、座ったりということ私たちがのように自然に行うことは、まだできません。あと、AI・人工知能が、ずいぶんと賢くなってきたとは言え、実際に使ってみれば、その賢さは非常に限定的であることが分かります。もちろん、AIは、多くのデータを処理するとか、計算をするとか、という点では目を見張るものがありますが、まだまだ人間知性には程遠いという印象です。やっぱり、人間の考える力は凄いんです。他にも、食物からエネルギーを得て、身体を動かしたり、頭を働かせたりすること。病気を自分で治そうとする治癒力をもっていること。時には自分を犠牲にして他者のた

めに尽くすことを選択できること。先の見通せない状況でも勇気と決断力で、これを乗り越えることができること。神様に造られた私たちには、そういう、まだまだ技術的に再現不可能な凄い能力がたくさんあります。

ただ、そういう「今はまだ再現不可能なところに神様の御業を見る」という考え方は、何と云いますか、ギリ貧になる可能性はあります。例えば、かつては「人間が空を飛ぶことはできない、それは神様の領域だ」と思われていましたが、今や空を飛び越え、大気圏を抜けて、宇宙にまで人間は行けるようになりました。そして、ロシアの唯物論的共産主義者であったガガーリンという宇宙飛行士は、青い地球を見下ろしながら「ここに神はいなかった」と言ったとか、言わなかったとか。

そういう伝承もあります。いずれ私たちも、神様の領域だと思っているところに、人間が手を伸ばし、これを制覇して、自らの支配のもとに置く瞬間を目撃するかも知れません。今のところだと、生命科学の領域では、遺伝子操作による赤ちゃんの「デザイン」が可能となる一歩手前にいます。

人間の都合や理想で、好きなように赤ちゃんの能力・資質を操れるようになれば、「その賢さは神様からの賜物ですね」とか「この可愛いお顔は、神様からのプレゼントです」とか言えなくなります。科学の進歩を止めることは、まず不可能なので、今後、少しずつ神様の御業の領域が減っていくことは確かだと思います。それは傲慢不遜でちょっと怖いことではありますが、でも、先ほども言ったように、人間が空を制覇したこと等を始め、同じような前例はすでにあることです。病院で最新医療の恩恵を受け、飛行機で世界中に旅行に行くことができ、テレビやパソコンやスマートフォンであらゆる情報をやり取りできる私たちは、すでにかつて存在した多くの神様の領域を侵略しています。そうやって、人間と神様の関係性って、色々と変わってきたということです。

今を生きる私たちは、神様の素晴らしい被造物である一方で、しかし、すでに神様の素晴らしい御業のいくつかを侵略・攻略した存在として、今を生きています。それって、結構、不安定でバラ

ンスの取りにくい状態です。かつては「助けてくださるのは神様だけ」と素直に言えたことが、今では、神様に代わる沢山の技術や制度があつて、あっちにもこっちにもお願いしないといけません。神様に祈ること以外にできることが、良くも悪くも増えてしまいました。これは神様にお願いをして、これは市役所にお願いして、これは病院にお願いして、これは電器屋さんにお願ひして、これは銀行にお願ひして、という具合です。でも、不思議なのは、そんな風に、お願いできる先が増えて、昔よりも格段に便利で快適な社会を生活しているにも関わらず、私たちの生活から悩みや苦しみが消えないということです。ことによっては、増えたという感じさえします。それと言うのは、いくら恵まれても満足しない人間の欲深さが原因なのか、あるいは、そもそも人類全体が間違つた方向に進んでいるからなのか、まあ、その辺りのことはよく分かりませんが。多分、これからも分かることはないと思います。ただ、昔より快適で便利なんだけど、昔の方が良かったと思ってしまう、この不思議な感じ。人々の知恵と工夫で洗練された現代社会の有様を、諸手を挙げて喜べない、この不幸を、どうやったら解消することができるのか。そんなことを考えることもあります。

今日の聖書箇所を読んで、昔の人も、昔の人なりに進みゆく時代の中で葛藤を経験したんだろうな、と思います。現代の私たちからすれば、昔はおしなべて不自由で限定的で素朴な時代を生きていたように思えますが、そんな昔の時代においても、少しずつ社会は変化し、人々の信仰心も強まったり、弱ったりしていたのでしょう。18節から20節は、偶像崇拜を行う者に狙いを定めて批判する意図が読み取れますが、今を生きる私たちにも、なんだか通用する部分がありそうな気がします。私たちは金箔をはって銀の鎖を付けるような像を作ることはありません。でも、かわりに私たちは、より多くの魅力的で、頼りになりそうで、巧みな職人が作った像以上の、誘惑がある世界を生きています。偶像と言うのは、文字通りの形作られた像に限つたものではなく、「なんだか頼りになりそうな不確かなもの」ということです。そういう意味では、むしろ、今の時代の方が、より

偶像崇拝的な世界であると言えます。だから、今日も聖書箇所は、時代を超えて、今を生きる私たちも真剣に聞いた方が良いのだと、私は思います。

こんなに便利で快適な世界を生きていながら、なお、思い悩み、苦しみ葛藤する私たちに対して、今日の聖書箇所の 21 節は、こう説教します。「お前たちは知ろうとせず聞こうとしないのか。初めから告げられてはいなかったのか。理解していなかったのか、地の基の置かれた様を」と。これは、旧約聖書の冒頭、創世記における創造物語のことを指しています。「あなたたちは、どのようにこの世界が出来上がり、神様の御心が現れたのか、知らないのか」と言うわけですね。神様が全知全能であることを証明する根拠として、創造主たる神様の御力がいかんなく発揮された創造物語を思い出すように促しています。23 節、24 節では、そんな神様の造られた世界に、多少の勢力を誇る偉い人たちがいたとしても、それがなんぼのもんじゃ、と畳み掛けて言います。いくら偉い人が現れたとしても、彼らは「うつろなものとされる」と。この偉い人と言うのは、国家規模の偉い人でもあり、また身近な上司や先輩という捉え方もできます。つまり、あなたの心と体と人生を支配する、いかなる存在も、神様の御前にあっては取るに足りないものなんだよ、と。だから、あなたたちは、誰を、何を恐れるというのだ、と。「目を高く上げ、誰が天の万象を創造したかを見よ。それらを数えて、引き出された方、それぞれの名を呼ばれる方の、力の強さ、激しい勢いから逃れうるものはない」。なんだけれども、それにも関わらず、「あなたは、それでも、まだ文句あるの?」ということです。何にも勝る創造主たる神様がいて、守ってくださるのに、まだ不安なのか? まだ悩むのか? まだ不満なのか? と。この問い掛けを現代社会に置き換えて、付け加えるなら、こんなにも便利で、こんなにも快適で、戦争の炎から遠い場所に生まれ、洗練された社会制度の中を生きさせて、食べるものを美味しく、水も綺麗で、なおかつ、神様という存在を教えてもらって、守られていると言われて、それでも、まだ文句あるの? と。

ん～、ここで「いいえ、ありません」と言いたいところですが、でも、「はい、そうです、まだ文句あるんです」と思ってしまうのが、人間ですよ。私たちの正直な姿だと思います。聞き分け良く聖書の御言葉に「アーメン」と言えないのが私たちです。今日の聖書箇所を読んで、100%の安心感と信頼感を持ってないのが、私たちです。もちろん、聞いたその時は、「確かに、アーメン」と言えるかも知れないけれど、1週間の日々の中で、再び迷い、悩み、不満を募らすのが、私たちです。でも、それで良いのだと思います。神様にあっては、そんな私たちの正直な姿も織り込み済みです。心からアーメンと言えない、良い子になれない私を、神様とイエス様は愛して、今日も、この礼拝に招いてくださったのです。「まだ文句があるなら、その祈りを聴きたい」と、神様は仰います。「苦しい時、医者にかかるように、訴えたいことがあれば私に言えば良い」とイエス様は仰います。今日の聖書箇所も、今日読んで終わりではありません。いつでも開いて読める聖書を通して、私たちは何度も何度も繰り返して、同じ箇所から教わり続けるのです。現代の非常に魅力的な偶像に誘惑されそうになった時、下を向いて狭くなった世界の中で、ぐるぐるぐるぐる思い悩んでいる時、「目を高く上げ、誰が天の万象を創造したかを見よ」と、何度でも繰り返し、繰り返し、教えられ諭されるのです。

今日から始まる1週間、多分、また迷うことも、悩むことも、文句を言いたくなることもあると思います。言いましょう、文句を。神様にぶつけてみましょう。それは、取りも直さず、私たちの心からの切実な祈りとして、必ず神様は受け止めてくださいます。

「それでもまだ、文句あるんですよ、神様」。そんなお祈りでつながる神様と私たちの仲睦まじい親子のような関りが、幼子にこそ相応しいという、天の国の扉を開くカギになるのかも知れません。先に天の国へと召された信仰の大先輩たちのことを心に留めつつ、私たちも神様の愛に全幅の信頼を置いた繋がりを意識して、この地上での日々を過ごして参りたいと思います。

神様。

今日も私たちのために、尊い安息日を備えてくださり、感謝致します。この特別に取り分けられた聖なる日に、私たちは、敬愛する信仰の友人たちと、こうして礼拝堂に集い、祈りを合わせています。世界では、戦争が起こり、自由が阻害され、静かな祈りの時を持つことができない人々がいる中で、このような幸いに与れることを、心から感謝致します。でも、あなたに文句があります。どうか、私たちの頂いているこの恵みと平和を、世界中の人にお与えください。天地を創られ、そのすべてを支配されるあなたには、その権利と力があると、私たちは信じています。そして、大きな不幸や悲劇を被らずとも、日々の小さな出来事に躓き、悩む、私たち一人ひとりのことを御心に留めて、時に応じた支えと励ましをお与えください。世界の片隅で、あなたに与えられた命を懸命に生きる私たちのことを忘れないでください。先に召されし天上の友に許された安らかな平和の恵みを、地上に生きるすべての人たちの上に、どうか豊かに注いでください。天にあっても、地にあっても、あなたの祝福を頂いて、心安らかに過ごすことができますように。

このお祈りを天と地の救い主である、御子イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださいます。主よ、造られたものがすべて、あなたに感謝し、あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ、あなたの主権の栄光を告げ、力強い御業について語りますように。その力強い御業と栄光を、主権の輝きを、人の子らに示しますように。あなたの主権はとこしえの主権、あなたの統治は代々に。主は倒れようとする人をひとりひとり支え、うずくまっている人を起こしてください。

祈祷：神様。寒さを感じる事が少しずつ増える中、主の誕生を予感する時期を私たちは過ごしています。いま11月に生まれた方々の事を憶えて祈りを合わせています。この方々の人生の道が、常にあなたによって守り導かれてきたことを感謝すると共に、その誕生の日から始まる新しい1年間、そして新しい人生の日々も、どうかあなたの御守りの内に喜び多いものとなりようをお願いを致します。喜怒哀楽を繰り返す毎日を、あなたが顧みて、その日ごとに労いと、慰めをお与えください。11月誕生者の上に、あなたの道を歩むことの平安と、主イエスの枝として連なることの幸いを豊かに注いでください。この祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。